高砂大嶋碁

五冊合一帙

へ遠13
1330

序

湯春の德紅紫く梅枝花始て
開く初淨瑠璃樂の口ぶりきき
嫁淨の容ハ雪ゆき中乃梅白くふるふ
して色恋しの想ひ屏風ゑいてもく
見れ共ハ相せ乃淨瑠璃婦結白髮の
尉と姥古れぞ淨瑠の始りを業

大東急記念文庫

数を積て松の名もたかの大海原
祝儀乃飾り物集くるあらたまの
梅ぞ咲みむ〳〵

享保十八丑の
ねぐらい初春

作者 其磧
作者 自笑

たかさご
高砂大海蓋

目録

第一 山川万里を深き法乃船乃廓乃徒然
業代よりない人を始乃家の恵笑
花おとい つるくなれい 雲れ桜ひ
ぐらべ男伊達廓にもと拍あまと

一之巻

第二

上根ふようして腰を押男行逆れたる
大わの奏ぶいうるさる也の様
産生れ古様をしらい足を学る喩也
釈文の動面ふ形ろるどの色性者

第三

二条国ふ東ものもるれ高者ものもの
物本の法ら弱い時色者の源ものずや
世界の泥む色男通ひ別る大く長
未代れ有りしもみるき肥なの貧人

一 上川万里を湯とた法分形ね廓の仕郷
人を指の格衣門もゆくまぞ久くき抑ぶい九列肥後ふ河
箱家れ神を友家とい我るり也我いまぐぐ宮まる妻もるるふ
よりそ伝ようる小女もあるべ小たく甲嫁の姫ようたよび人ふ屋
ふさしとき。酒のわるにてうぐまんと下の関上の実世後の丸
山流ちの柳町恨ぬ小世命に色ろ宮へる色ふへ拝
紅ぷ。ナ日次日ものそびうるふ。高ふそぐらの姫ぶいおまるくろう
性ふ足ひくく像ふくく。肌白うす筋用ものくる世伝も
ものて性ふうさく。欲をもつぶ。抑よ抑それど。ふ家よ紙ものて
角ぐら。ぬぐ一行事ものず。ふ屋酒こといるるぐ。高て色乃
のるぐさみよい物ぐと。ぷくく郷い世後。ぬい豊の元の形ふ踊

ようす事いかにとぞ。さてびとこの女房の女にと一見せざるべきにあらず。みちさつい
でなれば。梅川宮の在所へ参詣して。松の下ぐさ中とねんごろ
衣まんるぐれ。松ぶとけ。こひち浦の浜。ぐうふ海とおもひつきて
ら所。おいの多和未だと酒ほして。角のとんする色男。九にやのうち丸帆と
あげて。西風よ。恋とうくまを。浜ちまて。極楽深。宮の色濃よ。ごと
つきけ。宮に一夜いのうち。梅とて。人でる。柳風に入て。ぼのちやれ女
房あといろい風信。恋の男こと。ちて。東の浦。ぐ。仕あ。にくる。西。安い
さまあて。まのさいつ事。内。浦ふよいあれ。ごそちれ。にあひそち
ようの日和の出あいのぞ。ぞ。舌にいうとおりて。宮はのづけ。常とそ
あ。おるぐ。仕切て。日ぞ。いうぐ。さみて。あそべ。俄に。宴のうんぞう。
よりあいもやまあに。揚けまい。法師人。こびのうさけ。に。宮の在
あとにあそにして。ぬこと出。ようあ中。ふ。法ぐひとのてば。濃よ。ぐと

あ。ようをうにぞひもようね。あ。常。ぐ。ぬ。ぬ。ぬ

上あがりてぱし家はへ立寄ぞれかがあ色にぶづこるあの大さにぶぷくるく人耳
目とおどろかせりぷづくも色西へぞあきにあり老たへわうなごに深き
を才一と肩持とそう庶ぷぷ西の男ぞて素笠絵といふ人立とい
ふにて付くるあるめぐゆるのおわらぶとうてるはるの男ぞへぷらん移り門
素とて世男にてこのものそれ悟有もづよの書房と。日蔵ひとりれにな
く学子の天狗が通力見物の見れさきとへしゆづの落てる祐信と生
捕子鮎ふつけてうぶるやどの乳あるの。新といそあつまる無名別ものよへ。
蛇腹図外。高以十義冥途の九八月九三五あどいふおて海よ西のおかき
後義たぷ人れしまりつれぶちてぞ家はの里の新人名に俗くとぞあきぷ
もきくつく男あれべ。そうて蓮へふる人こみぶく喧嘩と鬱にすることそ
うそきるれぱかあねあるといふ人たぷとおわどの若いぷありけきび腹と
さすて西の一字とあにます杜どのつ。西ぞい。新くぶ感動にあそくと

どひぷくか形つのうぞのさらぎにゆて廊中りてあほ六門ふふ人とあて
入あがきとすれどきやつらぶゆるおおそ記百人ようあまりあれば。ものあ
ぶくぷはよいひいひて。房安ぞ三人にあ外格偏て。無ろれくぶゆるぞ西。
作り絵の素とあてぷきぶんあくあぶれてあくあるゆれおぎうひくう。
他虫の人いかくる西素の細細するあ人ちくず絵紙素そのまく柄絵そあ
さる大ふ立つけきそゆる人かるまおげやくの門ぞとのぞきまるぷう
そくのうりけぬきうけの紀藤る。一一ふ色ふくるんくそあるる都るすぐくる
国とうぞれ蛇腹図外ぶ見とうあ人とまぶの帯とそうのたさふまふ
ときうねといくぞ俗れぶうひあとと絵とぞいるく安全ぞ。ぷ人ゆくう
あ男ぞ七八人もあまきぶそのたけのとぞそれふぎうぶとうふれぞ。
素生のうとくいされそいふぶてぞ。ひとるきぶ仕合とそ藤きふあて紙
りぬきぶおにくぞ見れ出の男ぶそがいそとるつれがれ抱ぶとさぶぎ

さらに編笠を茅の穂とねはしぼく接拔て打てくれば伴の侍ども
あけまいぞ拔風をいとあげやの内へとけ入たるとうけてきづ義経
うづくに廊中より男たちひとく接と拔ぬ義経ものけてそこ
さをさしべ次郎のくに稱くに兼すくろあいあるいあたまをおとの侍
とびあげやに部屋をてく人をもちびてくふあ入ぬ手ぞ。
あもさらげばあるをのさくり海ぐひけよぬ中にいせまのぞとさすぐ
次とそれとあく制ぐれべ紙ぐの男ぐそたたたあるのあれてもぐひ皆
くあ和とさやおさあ表へあくれば人をも敵て目望ゆきーさも
ちびまりあるじ拔風名のあ子ぞ系拔の侍と墨ぬくまひを入金まの
ゆ方ゆへ拔よゆ拔をくてきやつとのい稱ゆをよいをちぐぬの
するりのあ拔のゆるあれべ拔ぬざんまのそへをちゆ金下もあや
じ。私あ拔きやつくとすぐあ。義ものくてゆ。

拔仲くて金ゆ乱ちえおくれ拔ぬの拔のあくひをつくれてぬやまくと拔
無くてくれうて拔ちをとおろされすれべちくり拔ぬぐすあます
と拔人のくれとぬやくてをしてそ。義をまけとといひやとれべ拔るぐ云
業とちくて後よ初射面ちくれ拔ぬるのちくの業
いれ引肥法の拔。人ぐ者ゆ里へ拔ちる業くりちの顔ゆわずゆ白
人のの人の反拔へゆ上ちあるよゆにて。ゆ強とおくれ拔ぬあゆ法反
ちくそ反のゆ拔ゆ法の拔ゆ拔ぬ法ゆ拔ぬ法ゆ拔ぬ法

つゝ[illegible]する[illegible]いとしみく[illegible]何[illegible]そ[illegible]分[illegible]なが[illegible]あどして[illegible]指[illegible]者[illegible]代[illegible]と[illegible]後[illegible]
はすもゆうたのもやとあれば[illegible]きろと[illegible]ゆあさまと[illegible]へつけ。[illegible]
肥後の[illegible]の[illegible]種の[illegible]を[illegible]あれの[illegible]ろ[illegible]て[illegible]ろ[illegible]
[illegible]ば。[illegible]へ[illegible]れ[illegible]
[illegible]の[illegible]とて[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]

続くてさびしかりそ体とわかい内二ひそう小姓とわかりてそこに居
たり出家の法師ぬさきに。まろ肥おの伯子ごに帰
の伯の基の方へ出家近あそびされかさひて大風はきごんの打と居合。
私内ごとやとおいて。事仰ごとおのこみそ。出動面のおもび
るされふてびに出仮銭ふ中ねに出仮とはて也に事ふ。
今もて後に出ざる事ものごとに中ん所ぬやさぬやんと怪るごと
出岡すとにそもれるよ。れるに也て。出考ん中とはもらおく。
うのそ尾にあらるぬ。人ものし法会ふ法ふ及ら岡ぬ事
ひ西とはひき法ひとぬ。法とうふやけきびに行て表方ふよい出
動面ふ。後に年末の和会和仮やう。ふ文は傷感はよく。
そまでいふもく出仮西あり上事うか出動面を祈ふ為ふ
いう。ひてより学校のおふ文よ

ゑぐれたるかの一ぢいきつくづくと見給へ。今はめでいとふるほう孫共なんどうりふ
系と云ふ伝者とゐるがかりうるゆへ屋とおぼえていてきうすぐ物語
する中に武中は男女ちがひとゐ人へ見給へ。と云ひ学ぶ側へ
拾ひ拾の雑中異の大切友ゐるとかいぶ物語作るべき男
ゐるぐ物は姫ゐや妻只一ゐるぐおもゐるゆへ紙又友ゐる云姫孫ゐ武
行て家方と云ゐる人ぶ法の姫ゐ又百ゐの合力して指ゐれと。一ゐるしびて
家方と友方と法ゐ。人ぶ法ゐ。ゐ人ぶ物姫ゐまぬしゐのゐひゐ物語ゐ物ゐ
妻女物は姫ゐゆづりて果ゐ。友方絶月の系図として物ゐのゐ。ゐ在
京の中後ゐゐの物と指鈴の伝ゐ石ゐ。ゐ法ゐ人ゐられゐ。
行ゐ情貯て月ゐゐ。ゐ法ゐの男ゐまゐけ友法ゐゐと名付ゐ。
中宮ゐかぎりゐ。ぶ法ゐ。ゐ四へもつれてゐゐゐゐゐれども。ゐ未
友方ゐ別ゐ人ぶ門ゐ人ゐ人ゐ法ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ

時物は姫ゐゐゐ。ゐ屋ゐ乳ゐゐ方ゐ。ゐ法ゐ物語ゐ
ゐ法ゐ。ゐ。ゐ。

甲斐国に年月を経て、この屋敷を建て、高くおすめやせたる。海は
より家を建てんとて、かねてつぐべき若い人を召して、かねうすき板を。下
絵、我が家ふみゆつぐせてくちをはとに絵をはゆづり給へと。
そこく我身おとくちをせの人口に移るべしとて、動面わんいなく。
ちうる舟いはとをひろくれ。絵員ふくそれてしこの非といいども我恩
きゆくよおくて絵をつるざる事をいつひて。紙をも
はいて私あるとへよりいいどそこをあの家をくいつかの恵へ
かしひ。ねく渡りうる絵をうせた。毎ゆづりとあるる金絵とた
いをとう。我絵と制すんとずいづんりをつるせた。あに美をんてあるる
いどおまつえ去をうる新郎中絵をの美を恵りて。我と
妻合を家を建てを法し。絵長のをべをはをの恵へ。
方への布尚絵べ。一斗九葉尚絵べ。兄牙和宮どそれ大ふい家郎の

ろをを大をををを

和漢の事に面くも添ふ方家とこげもゝ今あべかるべてあべきぞと。
俗と共よ白屋打ぬそ四らく考の行ここそぐひるさ

三　吳國ふ中知ふ人るき竟和若い知どや

緣ふ性い若ちり。惡當者の人ふ人れ和俗をゆて。
ましておよの鶴の行ぐ拓ふとうぐひめりけるぐ友成の人れ和俗をゆて。
今の代ふいためるき考るつ人きく書の獻云の次男重耳にもおくね
家くいひ考といひ考るさ友成ぞと。男伊達の風と打方の樹木の中に
いくれて感じのそうけ。西去沈牙とあて。九一巴ういふ和いてしいぐ。その
義ふよいふぐひ。ぐ友成一見のそ白立にて伐と出れ。ぐ家の主爽
そ和の射性の面とおて中おあ。ぐ。全く見ぐ中家和ととぜれ。
き中ふ今て。爽花ちひそふふ。中和系あ。中和俗。和ぐれ。
中ふいあ。ぐそもひ主爽の面ふて。中繼同の主角けひぐまとく友和

と後すとあるいぐ分和あ。きとふきふせんの巧とその男人ぶりぐは
西去いに服付ぐど。一爽のそこ後ぐれぐ友成人きにおぐろきあひ。和の
爽の主爽の面とぐ爽主和あ。ぐといぐ考ぐいひるぞゆくかこち
ふるき来。中種大の和の中野とうこふ。ふ九無の地ぐくおと
すけもあれ。ふくさ中このあねふくずとおそ白き拓と立てのあぐ。
西去拓て脚とつぐ。ぐ人の中和去ふ中和ぐ去のこにそいよふいろいい作ふき
中ぐ、和いぐ友ふ和ぐの中ふ系とさいの時とぐ和ふ中ふとけ
ふ後ぐ中爽和とねとみ人ぐ。ふ和ふ和よりふけそとりとこそにて。
紀辰へさ風ぐ後ふ。ぐ動面いぐ中ぐ和ふ。ふ中ふ和ふ中ふ和ふ中ふ和

ふなとの
どうぐ
おまの
男ぶりを
やしませう

とりこぞ
きこえんせ
とりまるの
まつのぞ
れんどうの
ケ条をよろこと上すると
ようへい
あんを
うむぞ

けうりゃくと云ふ。是さい和の只公家方の下おとねぜつ。爰の盃まも藩
主の住ひもこゝやはり家の内ふするぬるい板まろ。もろしべ仕ひの
遠ゐ和ゐるれいぬ和さえ。にて何ゐること作てはあるべはれ
べ。私法義りゐ表向より仕りけ。親殿はあ乳とア海ぜ。ま舟
はおどろきされ作ゐそ。津とは男すぐ追めひ。ひそふ板に入私
宅へは入るさるに。私方に法を生ま。板をとうひいに変て遠居れ
和ぜ。呉今爰のゐと金仕出いて。遠長楽にえて作へちん。
さあるぬいは家のたゐ。何事も私法牙にぐかりあぐ男とはゐさる
べとはひゐれい家者と兄上にそ海さんと云人遠長あゐゐに入さ。
他人は家とうけれんや爰の出るさいそもあくも。海ぐ板ぬにまうすぜ
とあゐれい。四去い板び。藤家へひそふ海ゐゐ。友成い爰先と
いゐゐを吹あひてゐゐ和ゐ。海ゐゐとはゐれまぐれ。ぐ

えまでの間ゐにて猫ゐへのけ。是つぐの中家来板者とみ。お方
茨へゐされ。ゐて海者とぐゐられゐまへ。庭の梅木の陰ゐ。ゐ和
門先のつくくおかまて。庭中さいぐまの。庭おもはさぐまれまぐ。
藤ゐゐれ。里の。庭病の作同ぬ。廊中の男女の者は。ゐて男作者。
ゐいん和ゐとやぐぐ。おまりに。庭海堂がけゐゐふ。中ゐもゐき。板
藤の板はゐる。先下さ。ぐと。ゐゐの庭ゐる次へゐを。れぐ。中ふれ。記
富作作刀ゐとうけ。志所人の庭者へ板藤ゐ。我まとけゐゐい
ちぐぐ。ぐ中板真の中板ゐゐに。海ゐ。すにてゐゐりあぐ。ぐ
切て切ゐんと和ゐつゐると。作ゐ。友成ゐ。里の藤四のゐあ。ゐつを
ゐれ。大海風ゐゐと。ゐ板板。作ゐと。作ゐゐ。あの石い。廊人毎
板者てさいぐゐ。ゐの男作者の板人。ゐい中者者の奥にゐるれぐ。
そのまゐおゐゐれ。作ゐおゐ。中ゐ二百人金

うれしがりてひとりとわいひようそい才一旦わのおろがゝ出るとぴろくとつて
とーちゞめそ表にのこあしみて新日新清子にうるとうえてこうろや
おゞゆくい物景のらくそくけをて庄中の史をけ面子とゆそのむかへ。
でり法義勿無ちつよトしてて仲旦ろ一つき寺門やて面仕方へ亟。
表成ニ対面て新辰は孫ニしてて御面の青ケ条ニと孫ゝて。
そ姫のなきは仕去と夢ゝは成武士の異却にもつ臣ゆゝに有ると
面仕法とうろやよれば表成神ゝ史ゆ作ゝそおゞろきる風情。
以のは主ゝまゝて立仏のケ条ニとおんみゝて仏ゝやひくべこふも
臣ゆろおる新智今文悔てうゝぶゝは面仕の人ゝと形ゝ入。
新辰のはきゝんとゝ合。動ゝは親光の九合ゝ形ゝ也相ケ条ニ
のゆゝ仏の字変ろ仏の面とれすゝ出ろは面仕へろ表おは法ゝて
はは法付ゝそのみこまゝ出面のゝたおゝい前へて当ゝ臣仕義ゝ

仏金仏と新まる仏ゝよゝ孫れとあれば法層とひゝろ仏ゝは面の
仏ゝは表ゝゝは鉄ゝは面ゝは法ゝる。初ゝ会長のゆゝるゝろ。コレ
面ゝろ仏ゝは考ゝゝは面ゝの面ゝ。は法ゝ新ゝと関ゝは法ゝおゝろゝて。
なきゝは孫ゝろゆゝ自条の表の仏法新へ入ゝるゝけゝろゝは性ゝゝ表の
はゝろゝにゝりゝべきゝゝのゝは法ゝにおゝゝそは金仏一ゝゝて法ゝの才一のはゝ法ゝ
孫ゝろゝに文ニはゝなきゝとゝみゝゝそゝは法ゝ出入ゝの温
ゝは仏ゝ表ゝ法ゝの表ゝ仏ゝ表ゝゝは法ゝ出入ゝの温
ゝはゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

多武大織冠

同孫

第一　我人てもなく御乃てけ追刷
中ひてしけまい色中と与る赤ゐ雲
こゝぞやこれ無職のゞ言て知る情け合
盗人の左ゆく赤さけ仕名と名案
多へや

第二　侍屋敷に先祖代々あれて結やさんぶどや
悪性がつよくて喜兵衛と大長
女ちがひなる侍にとる友成といふ我る更
牧いつまでもいつ〜ぶるか足弟の奥情

第三　一部のうばげつと実名紙切る松の果
年久しくも足利さ演者にて寡婦
別深の右まを鈴と入をくいまれいをきう
辰のちをづれとまつふやうをない姫の仏

一　我人でも久しくぬぬ御屋での追剥
きのこの猪しく久てけいくきつけ。業ざうとの屋さ切
てぴ月ひとつのかくあすく。西まぶ市へひとふ事れとい
いひつれど。都の去ちがくもお面るけきべ。岡へくは
うりがくと。郎百姓と紅のつま編結るつと。内情よ入て。
ふひわくりいろ下の関れと情屋の巴といる女をだ
ぐひよ二世の契りを。祈ぐにはゆるいけて。ちりつくる紀結
こうさより女子の方うう。大分和るづこ。外のつとあとうさて。
友源ひとりのんづひ。元まで御れるまものさてさびし
きまに新うる拙く長人をれど。なし紙やめど。ひどうあと
きども。いろのく者にせど。よく外のあるあつど。稼行ぬ

日は格子に洞をくりぬき、窓におろして
こうがいさしの窓とつくりたる小袖共も
きせてみそこう物せ三尺帯のかたを結ぶ
りょうしゅうなれども、そ年の霜月神で酒あるを
探こうして大寒の時のまひこうり付て、ぬきよて友成どのよ恋びてあい
人ゆるされども、そ年の霜月神で酒あるを
人ゆるぬでもあわと表てもあまつぼきといいまず。ぬるを
きいろ文七らも合るまを断て。都目酒をこぶをを。結ぶ月ろ日
も結ぶとひろれば。我身のゆゆくとさひ酒よいあず。見ぬ
ちゃとやよりや友成いちゃ。やされまで。酒の周果ろ見行ものと
ちゃちゃすのうちと。身もぬぐて。月島にゆ対。ぬれるの和尚書奉ま
年れば稚とうて。紙ろ人酒こまびやれぬのあるとさるよ。雑波
の色里ありやといろるまのりょうへ。ぬに書てやしょう。梅ぬやとい

あるひゆゆが我よろ色とぬ。俊やといて。雑波へゆく気とぬ一家の女
らは恋川といまを別てそれろぐ切にそてられるとあるとすどに。
一年ある色ぬ。ぬ色ときつあぐといいつあ。ぬいつあぐといいつあ。ぬ色ろ
雑波よ約とぬとろるある紙ぬ色ぬ。ぬけあつてあるぬと雑波のろ人とぬ
ぐ。ぬく川の宿とるとそ。ぬ本のれろ系とそ。ぬく雑本の人もろて。ぬ色
ぬぐ。ぬすぐぞろぐ約ろて。ぬ色。里塚の一本の柳色。ぬよろ。ぬ色ろ。ぬ色ろ
べさ大の男。面体い。ぬぐ。ぬけて。ぬよ車もぬけそぬ。ぬ大力一ぬ。ぬ
ぬき物ぬてぬろとぬ。ぬ色ぬ。友成の約ろ。ぬとぬ。ぬぐ。ぬ色ぬ。ぬ人
ぬ色ぬいぬろぬぬ。ぬ大力のぐ。ぬ。ぬろ。ぬ人ぬ。ぬ酒ぬ。ぬぬ
ぬぬぬ

二ノ巻
ごさんぬ
あとをしたひすぐ
ふとところの
人をとり
まるせんち
まぶたのひとハ
そこをうすぐ
こうで
ちんぜで
ぐごうんせ
タヅクリびるのびや
くんぬんせうれよ
いとしい
男ゆゑ
いとひハせぬ

金の行方をおいかけるというのは、まことにせがれをそそのかしたる
金をあるところにあるまいかと知てゐる。さあらばそもゝ侍わけのきて
おさんをあれはやるべく命ゝ侍るとおさうもれいの友蔵さんとてかく
さあれば金をとる知ていつもうの体ばられもせざる。西徳寺とるべき
してくれんとよく知るべきなどゝ思て海老彩助西あ。情よあ
ゝめかるかくべやうとひとるよ。引掛て折けるをひろとん
づせいあるのれは切付ねんとあるいつるづまりよくしろく
まいろ。西ろいそ友蔵と伝の若すくおさをぬぎて上てそうど
のうやでてんぐしてよるべるて。情へるとへ勘西あをりおし。御加
細縄して友蔵といまめ引記して松のまにてうつけおかて住家
いやすくれど。勘西あるるかいへ金の代りに一命いゆるとあるの
若よ助いそといそもうへと。金らがてげ美あのれのしろうる深を

見やるを思てぐり友蔵を会かぎりすく。蛤とりみるぐんだうこうあへど。
はるひにゆい付れて、せひもるや方体といひるぐ。そまで去ー天罰
るんと深とるびおいする。あへらん移門を移して新とつるんるる女
をしろにおい一さんはを本り。友蔵の指ふとんて肝とつぶ。女をあこ
つへおろ一家ゆで友蔵の縄ととけば女い移れえいざまるさは加
ぐるぷりておまへをちひ廓とわけあ門松をちひ本巳あへ新方
より追ようとけれずにいらぐされんとやとへ門をれのはん付るて。
くるとの男を追ちピそとあて本てるさんをふはれとあろ
ちゆてるさんせまるあいまてうれいと。れ付て法々れば友蔵も深と
こぐ。そこちてひ本れ。仏庵法くずと。板門をこひひさる深
しるのき基よかくまでのかざ。西ろのいろ。ふるびあ西へ立ろうなば。
け悪い報ど。我兄ゆへよ身とつぎと拝情すの巳。釈の勧をとゆん

とゝい〳〵給ゆるぎき和尚へゆくれば。いまゞ丹右の中ゝにゐゆくゝ。
浦右のゝつこめて仕負。五百文の金をゝ〳〵のこ。縄めにとゝ及び面目
なき待とゝ丹せをけるゝ。しうれとゝ次第と仕ゆくべ。えまこゝへぬ仕次第。
ム、掛けるよ緋細する追剝めゞ。人金をれてあまつさへ殺すゝ。ぞうけそれゝ。
いまゝ去ゝ〳〵ふげのくぼ。追うけて武百文とれ扇てをゝどゞ中人
ハつゝ元分ゆ元の方へ出紙あれ。九し次第ゝ追付ゝさんとゝひ
ずて拾ふて先ゆけゞ。そゝ〳〵金ゝ〳〵ゝ。ひゝさゝ毛角と放をうけて止
ゝゝど耳ゝ入どうけゆきゞ。ゝゝゝ家にゝゝれまゞ。ゝ指爲にま
うゝゆゝの方へ行〳〵と。ゝゝゝとうゝとゝ。ゝまうゝて見て行完
のゝ月ゝゝのゝ屋ゝゝゝゝゝゝゝ。ゝひゝゝゝ仕合よ
ゝゝをの受働さ。五百文の小判のゝゝゝゝゝ。義の小法ゝをゝみ
十ゝゝゝゝゝゝゝ

つけあげるのまつ三人ねとり人ぬ。金に南部が吹つけて。いとや腐が来るあとい。
江のイトぶんびゝ物とし。揺て折りけるとひゝとゝとゝとゝあてれば。
うんとのゝとしりて。泥池の中へ井四。今子沼ばゝ長崎。てゝこゝ人押
入。宝て三人の名ゞ名称をゝ行ゝて。あゝどゝ。ねゝとゝまゝしてゝも行ゝ。熊
坂と名よりゝれゝる盗人の書法も。つゝゝ考ゝ。ゝ知ゝて。いけゝゝど。泥池ゝゝ
泥まゝゝれゝゝ。ゝゝゝゝゝゝ。ゝゝゝゝ。ゝゝゝゝゝゝ

あるとき女房どもとあそびにてさぶらひしに
はりけ後湯をとりあげさせ給へいかゝ
せ給ふ御戸の内をとゝのへさせ給ひて
のこりをいかよい奥目もつゝあず。男へ
初付の女をとゝ性をつよくれとて
毛あるもの女をいかゝ女のねる所の上に
のまくれのそひ。罪とつくり也。
さくをさきをとれど。巴ゝりいたゝ
あるところの格さとのぞきとる
いれのぎいろて巴ゝ殺をよ
友ゝ殺ゝと格てあの女めの
とやそこさいあるとい

ゆゝしく殺ゝ殺ゝ殺ゝの歳は。深夜
殺ゝ殺ゝ殺ゝをあげてゆゝ
ものよおなじこゝの内格と云
まで。なを稼まゝの人ゝこゝ
の格ゝ同ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ
格ゝ殺ゝのぞきとゝ殺ゝ
今ゝゝゝゝゝゝ殺ゝ殺ゝ
殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ
ゝゝゝゝゝゝ殺ゝ殺ゝ
ずゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ
に一年ゝの格ゝ巴ゝ

あるまぶそこをかくこゝにはかまだゆるとあるもあり私
もゝかるのあれいよけて今はかゝるやあげやあるぬれ〳〵まんとぶろ
ろ母ごんとあまてゝ仕ちやゝこたちやうこんつろうぶぎおけてとこまく
四方はうろて表へ出れいろ母いあげやで行るべきぶそちこぬるろてぶをを
ぶづひとあ〳〵女ぶ紙ひろりとせるていろの仏こぬたと紙ちあるとおを
ぬけて家をついそまてろれこ母のつれあるぶよとも同ろて仕ろこと
ろこぶはろやぶぶこぶこんろうこそわつの紙ちあをこんぶけてろぶん
すこ情ぶあきこ紙ぶるうてぶぶろてぶ所ぶたい友仏清よ
ないぶ紙おとゝつれて仕ちゝへ行ぶこんちゝのかあるらろねぎをひろひと
おぶ母ぶあれのうこぶ表い地のおあの子ぶ表の中ぶ表へぬまと
ゝせいぶそここそろうとしてよけまてぶいちゝ母ぶ同さをて表へ出ろ。
ちの母ろて浅ぶの子ゝいけ母ぶこぶ仏ぶ表ぶ仏合すれぶこハ

ちまれの母ろてろれておいこゝぬ仏ぶろ私たこんあられお
やぶぶまくぶとぶろれの地のすぶ風ぶゝあるあぶとの也こすあいろ仏はけ
ぬられいとこんぶゝまぶこ私ちまぶくとちろぶきたるるゝやせねぶれあの母こハ
とゝまぶゝこぶ母はの紙あこいちまゝ四ろそあこあいるれまぶあぶこもろこたこま
さうのあおとそこちついてまてゝ四こたるこ仏合せゝ仏ぶ肝のつぶれこ影
つきあぶ〳〵いちゝやぶこあおとちろてこぶゝろのあいころすんで酒こぬ母
にこんゝぶろのあぶゝゝゝあるゝろろあてけまを仏ゝころ仏こ
てゝ仏ぶ紙あこ元つこゝそここいちらこ仏母あこゝんとこて紙ぶの仏こ酒
こ仏ぶ也こいこ同醤ぶあぶこあぶこぶこぶころてこもこ仏ねぶちゝぶおこ人ハ也
ぶ門の横れのこ人仏ぶこ仏ぶこぶ母れのおちこれでいるいこと
いこハゝこいてこそこの横ぶ母こぶ母こ神とあるしころ表成
こと行あひ母こぶぶこぶ母ぶこ紙のこ物面ぶ命こて紙のこ物こ形ぶこぶ

巴よりはなをとりてうつくしき女ぞ。はなさくころ、一向二人ぐらしにて
ゐるもうけまじ。ぞ。ゆゑもなくて。なんよりでうく。彼れ村の者の苦も
友ぞとなく年ばかりぞ。年相合うずに妻べ物でいとしがらぬ。ぞ。嫁ひ。
我い嫁その妹よ人参多くあれ。年後あれば。しき粮よ。ゐるといとこゆひ。
みぞ。ゐ。年まも無ずべきれるぞ。ぞ。ぞ。

ばしのかれそ尾のようなるとぞ。ふかき恨みの後ぞ。ながぶるさの
拍子にぞ。人々にむかひとこすびとたゝるの酒幸して。
暁ぐさにいとゞ涙をながしてぞ。稲荷明神の姫がひれふしぞ。
中とぞ成の渡のゆるぎぞ。大門にいよいよ出て海よりひくとも拭すてまひく
みそなぬ。あつれは情ふかくぞ。人てけり

三 一夜の投宿にも三度をかさるる松の果

狼狽野辺の紀伊。獄師にもと搭て幸に獲と。古人のつるぶく。
変成三度とかくつりぞ。ふかきの。ぞ。三度のあと。後長
ぞ川大猪拍子に後をとるいとぞ。ふかきのるとき海べ。ふかくびゆ。
やうに巧なるいとのれは家を押外せんぐるよ。拍子あるまひ
とくれいの変方いよく三後あつて変成万一西へ帰りまうしを
叫て。懐聰とくりへなばそ。人たに動向と後ぞ。へふれるぞ。

別大脳神通紀と吹ほ仮に行れ拍子ぞ。ふかく家中のあく。へまり。
漫くとるびく食ぶとくれいぞろく変成釣鮭ぐ方へ出びて帰り
ぞ大物河も清流なされぐく。釣鮭ちつ中釣ろとくれ。変云
の後ぞ人ぞ。ぞとりて。ひそふ釣ぞ。ぞ。ぞ屋ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。
ひ。ぞ月ぞとぞ。ぞ方ぞ。ぞ。ぞ年に。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。
ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。

どふーて
こりゃあるぞ
おえん
そりゃうんせ

あちらづき
そうあ
今はすぐこで
あちもわんげくあい

いてもけんぶつうをしていてさいをもやしたとぞ。ぞうさの仕付れてぞ。ぞうさの仕
付ぐことあ人づ。毎日毎夜入りうの出仏ぐそれけるあ二付れし。ぞうの
ぞうあ面おいてまどぞ。祈りもて祭りを拵えもてをぐの出れ無栄
れの愛と見人いりぞ。そしょーく人成さハ我出ぐ四人ょ出あれ。
編笠ろろ人めとぞび。釣糸つぐ宅て出ぐ彩面歌のまを
をてれりるふ。れ風の考ふつれて。まけらきこ体線の考。そして耳を
すあ。出らい並れ猫師ぞぐいまざる不ぬ。仕ぐ山他と祭外
しぞる風流ぬ屋ぞとそけるぞとぞ。こ体の吉れする方とんや
ぞまへ流をぞんるまるあの考ぞ。ぐもいれれ女の祭りてう
ふ小ぞの唱考とぞへ出て。釣糸ぐの河ぞ。れまと家の中
いてぞうもらへるいれのまぬぐとうぞ。おのるまぞれぐつ
けてぐぐまれぐそもれぐ。ぞひてぞれのへいとーけるぐとぞ。へ

うも祝ぐこいるまでうやる来のみくを源はうそ志ぶー
ゆへへておいするれうぞ。四ようるぐれ。ぞれ戸あけて光めきこる女者出るを
んてぞらやとぞ。ぞとうこけ祭うんとこるるふ。ぞのかぐるしろう神を
りてゴレ友さんたまさんの考ぞ。ぞ考えさんぞ。ぞうのるまぞ。ぞこいとのるまぞ。ぞ系
ますぞ。ぞうるいふぐやるぐふ。ぞこらへ出ぞうるきれまをとーくぐめ
るとぞうるうてこれぐ。ぞ出ぞて祝ぐつひーぐろの久番ぞう。
そこいぞうりそらいぐるてぞ出ぞうきょいのるぞとこへぐまぐおまへいた大
まえさんのるとぞうずる考。祝ぞれいるぞやおまへ。ぞうう出郎面の
ぞ男いるんけてぞおげやのうすぐれ出ぞのさるきれこ祝とぞるてぞ出ぞ
るきれおるうこ考のう退ようけきまうれば。男侍色のうん祭う
門こぐ考まれとかこへ。退ようの考こと考ちとてぞぐこうつ祭りてゆう色
ゆへぞれう祝ぐこ考ぐ祝ぐ考へ人と思て考こ考れにぞ出雑波の彩

所にて人付おさしれ親方同全のつゝしみきに成て。ゝうとうけ義の母に
に移りさゆ新所ゝゝ元屋につれて行ゝゝゝまそびは屋敷へ移ゝ
お姫れの出入るさゝるは家お自の約束なれて。ゝ侍かごゝゝそび
とう。私いあその文の友成れの義にてさゝゝゝ親ゝさ移ゝそ金のゝ
にゝゝきつとあの身にゝゝゝ侍と。ゝ侍屋れとゝんまておゝのゝゝまと
す。廊へ侍ぬゝゝ親ゝさごのゝゝは言葉をそゝられ下され友成れよ
おゝよゝゝゝをゝゝおゝゝゝゝゝ言てゝゝくまゝゝ下されと。ゝ言ゝは侍びゝ
ゝされまゝゝれゝゝお情ゝゝゝゝお姫ゝそゝは侍のは侍ゝゝ侍すゝれ。
親方ごのゝいゝゝ程お金とゝされゝゝゝは屋へゝゝそれ入
あそびまゝてゝゝおのゝきごゝゝゝゝのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝか
らゝゝ侍ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

てゐざれどゞさうにゐざりまするゐざりあがるあれはゆゑにゆ
と泣てゐるゐざりますゆゑにおそいるなされてゐまれよくゐざりのお新
とうんせてゐるさうまゐさるおいと家いたんにまたゐるとゐたゐるゐざりつゐて
えるかるゐゐゐ女中ゐけとあれいたゐるとえらるてゐれおこわるてまてもゐるる
まゐどゐるにいるれて見いあるひさゐ四人ゐゐゐゐゐゐゐけゐゐゐでい
おいうゐるゐゐゐゐさゐてゐれゐてまゐれついてゐれいいもゐゐゐゐゐゐゐ流
うて神とゐしけゐ女房も涙ゐいとたゐるゐゐゐゐゐゐゐが涙ゐゐそい
きてゐゐに涙とゐゐ新町ゐて口れてゐれひけゐゐゐのゐゐの泣いつゐゐゐり
ゐゐ涙のゐふ伝けゐ時ゐ八ゐとうゐゐゐ女中のゐゐゐてゐ程ゐゐ
ゐゐゐゐゐ武家れのゐおゐゐゐとゐゐてゐゐに女中のつゐいゐゐお姫れ
もゐきゐんゐゐれ入ゐゐゐゐゐれゐゐゐゐゐゐゐゐます抱ゐ加ゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐ

竹取大物語

第一　今ハ不審ハ光源氏の月見ゆるハ別世人

同孫

今ハ昔竹とり翁と申ハ世間ニ隠れなき博徒の仁
有けるつきうけて生涯乃家業
其の林乃中ニ光ル事ハ有人

大倉文庫

三ノ巻

第二　はそいける和毎まと慕い嫁の君
拾梅の臣といくらきわん仏まけ事
傍と夕べ今さの恵性い方俗の色粧ひ
推もかも知人よさん彩紀に抱と芸達堂人

第三　書尋変ちべる無るより弘新只さ弟
ぞうて只上の姿とおひうれさよ
第四ふどうよくふ後と切というその作りや
一乃の中より追刷の昔弘と只の紙色者

一　今ここそふ家義まの日れ光り海る小判盗人
う後耳塙む河い情こ。ム徒ろ府い懸にとどうずといふ古
賢の盛とうきまんど。本既和に唐をうぶる考ふる。怪
廟とふるひ。是より形えよはうさて。返逢とさひ之ものび
くに結浦人と石々へ。天てものるいれせーを川大賠ゴ
陽係ひくんよ一仏彩滅の墓ときりてみうと。桂廟よ
却それて点いちるゴ。ム中にあやぶむやうも多ゴうさ豆の
罪とうこうう。追付清きき月と如べさお表よいタそんさ
う徒といふ面の。結る八情のこ乃お度へひそうふ寄集て。
係叔の墓後をすれ。新系の面系。沢川筆ちつび社よ来
て。大賠よ射面とやけるい内と仏付れ。一方のたれにも如べさ。

軍略飛猿の法人を召抱せられ方々とひそうふ
るゆへ一人の仕士とかくひ後ろ付うけとゝ
いつもうまく彼法人大腹ぐるおれのこまる。そ川ゑてを方い軍師飛猿
猿の人ときけつ。我ひ度業の中ゝ武略よ逢世法人会れと。憂こに
かゆゝる。自分の名ぎ。あるゆへ。あず。秘ふ豆若者の種の友方
云の中熱能。友法ゝ友とゆ中方あり。そい新そいゆ中き妻の猿よあを
出せあり上そ。中ゆ妻中ゆ人のゝ れど。中家ゝの中法男友成とゆ人中
面新るといゆづれ。ゆて友成色秋方法とぬまれ。命ゝそもゝふ行猿。
新友の動家と待れ。尚ゝ中お国を中ゝ近あるとゝ人た。ゆ二家想と
をぜらるべき中云を。もとゆ。そ中熱能友法ゝ友るとゝ中出れも
せざるとゆ猿ゆ中ゝ。そ中ゝ中ゝふ中ゝのゝ中ゝて中係友をおこされ軍
動とかるゝ。ゝて。ゝ中ゝ中ゆ熱能ゝ新ゝけ。一対よ勝負とゆゝて中ゆ新ゝと

神仏ゝんとの中金新よ対てゝうとひく猿ゝのゝ中ゝ秘ゝ命ゝ
べゝれた。ゝい中ゝ新友のゝ軍ゝ法ゝ中ゝ猿ゝ中ゝ新ゝ
の中ゝも中ゝれ。ゝおゝゝ新ゝの一ゝゝを中ゝれど。新ゝ猿ゝ中ゝ新ゝ友を関
も関ゝゝ中ゝのゝく猿ゝそゝゝ中ゝゝ友方云
中ゝ金ゝゝ中ゝ猿ゝの中ゝ猿ゝ中ゝ新ゝ友法ゝ友の中ゝ行ゝて中。
方云の中ゝ。ゝひゝゝんゝおゝ中ゝ。ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
紙ゝとゝてゝれんゝのゝゝ中ゝゝゝ中ゝ。ゝ中ゝ猿ゝ中ゝ新ゝ友法ゝ友の中ゝ新ゝ猿ゝと法
てゝれゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ぬきとめ足ヤ言ます
ぬきとめ
ぬけしの
大せん
伊ゐるえもん

秘けき諸剣八十三変万化の奇法おそくも無法
なくいかなる難にあひてもこれを知ることなし
くまけいさ医と。唐そと世そ
なれば大陸大きに怪しと。
なくいかなる学者の人と招きなりる。
及ぶ怪ととげらるべき古傳
三人とさんやさん別剣者の
やさん拙名いかとやん
家とそ名家とそ
長崎の下屋敷へ後引
おそれて大脇と見るとも
見て。たゞく拙者はいとく
ハ物をもわつらるを。

新り流剣術をたゞ
者と引合せそいかゝりの味方へ招
見ばけにいかなるたゞ
とたゞ三ヶ所ばかり
うく寄るを示合さるべと
ふくやん合をとちらべきに
反へ出見るをいさやさん
たゞたゞ剛のられふすを
いと力よてとかいかゝ
いやと川大拙反ばたゞ
まばば反れやとの
いそやとれば一時くばかり

まゝなりやとあれば畏て承まつるとうけ給はりぬ
畏り一方の大将ゆゑ軍船さんまんの兵いちとや張人
君の威名をゆゝしき敵の由仮まれ共もはてらんで何ぞ
まけとやせん安次郎宮と打笑軍船のまき者とあれば一ての
番組いさぎよく大将ぶり組ぶりそいなべ一ぱいをとるべ西蛮ろ二
あうみ出ぶ合大義とぶもじ出ぶ合ぶ一方の大将の兵
そぶ合り辛勇くらべ申れよ大やう始てとぶ
りひ張まみぶ合ぶ仕合とぶ合ぶ郡とよて義経の面体をよんで出ぶ
却ぶ合けぶ大将ぶもけぶきうぶ合ぶ出ぶ合ぶ大将ぶ
ぶ合ぶ怪ぶぶ合ぶ敵の出ぶ合ぶ体ぶ合ぶ合せぶ合ぶ出ぶ合ぶ
ぶ合ぶ出ぶ合ぶ眼ぶ合ぶ合ぶ合ぶ体ぶ合ぶ合ぶ合ぶ合ぶ合ぶ
恨ぶ合ぶ合ぶ合ぶ合ぶ合

角ぐみ高雲とかいふ結人の肌付金武百まうづまきもろれりと結人某
と申せし追ひかけるに怪さぐ海池の泥あり手拭上ひ出さ
にて武士の深泥仕るゆに辻切注盗とか
すい敵れよ張ず若ようみさうひ結い泥より蛇蛇そし傷る蛇
うか蛇そうるる安ぞ結の角ぐとえん中ゆ揚まぐ方言のかくそ
附い者の結ゆ手とまず蛇のさぐひの某之みとうんくいい蛇の変
の附まそいくいゆ白結ゆる中月のまにそゆ中のるとゆまつぐされ
おいゆ角とぐじをるしのといそれぐゆもみ大和とゆるのゆ中ゆおるう
うぐゆ角ぐおいゆ角とゆ結んとゆぐうるゆ中けきゆ結いるう
ぐけ手手手とみそゆ中つうれ和結の男生結作みしおくぬ名生とゆ
ゆた伝ひゆぐ生成のゆまうゆ西ゆ角の切れ注盗いつひのるゆ中る
投網ゆうたゆいうゆまうゆ中ゆ大まの大和とゆやされどゆよ角濃

かつかとつまうじと別大結砂ゆ結の変結の変をゆむ
すびまうゆ中ゆうて伝義とゆくひみすゆ中結ゆ
家の下へ出つゆ中ゆ上ゆ中角とゆ変ゆ中ゆ結ゆ中ゆ結ゆ中へ
まて変ゆ中ゆ上ゆ中ゆ変ゆ中ゆ結ゆ中ゆ結ゆ中ゆ結

下屋敷と称ひて。拙者の居宅とうの。ぼまたろ。東うに。拙者の方
ゆきゆるとも。けづらば。海家とあつてあそこ。東へ。廻りて。四間あるうりて。
上屋敷ならびに。れいぞ。拙者といふものの。伝ふ。ぼりうさ。
いにて。五月。追付。来ふ。それ。ぼまたれうそ。ずうとうみ。ぞと。
何と。ゆて。出行。いぼ。ちの。泥酔。よ。及び。碑。と。松にせ。ぐ。ぼ。とうくいび
き出て。ぼまたちつひうう。ぼとひうくめうふ。一ろつ。ぐて。奥の方。に。男女
のあるとぼまたちつ。耳。に。入て。おうつ。ぐ。ぼ。ア。奥へ。男。うあ
いうう。ぼ。いざるに。ぼのぬ。ぐ。うの。ろ。ふ。ぼ。ちうに。ゆんと。ぼ。ぼ。ぼ。ぼ。
ぼん。耳。と。ゆて。ぼ。長。とにあて。ゆみ。ぼ。ぼ。ぼ。ぼ。ぼ。ぼ。ぼ。ぼ。
変。ぼ。云。いうう。ぼ。ぼ。ぼ。ぼ。ぼ。ぼ。ぼ。ぼ

あれしゆへ。親友内男をうばはれるつづしらの石段におそ。おもはんてうは
あるまあるべきなれば。家老の妻の後より出生の男子。ぞやは一緒を
我より直ぐにゆづりまゐらせあがさんづれも。親の毎ようゆづりさ
はくるあとをまをあてぞよをはてまよいよくつぐ。ちんの為ばり也。
そこによって親を捨て海よひ男と結婚よ。わるるず動面わびぞ。動
面わべづるのあるおるざれば。さいぞれ兄弟のつぐ〳〵いなるまをとおひ。
抜く選ばそうく也ゆへよ。我後今の面。今日かく動面をうけおを
立ちぬぞうるふ今ちぞとも新紀に達らひ面。親友の下
面をとも立ずぞ。そちぶ家にひるれぞうもひやうへ入て来ぞいひ
立分の振我るをとうれぞ。たゝ人抱をうにうびとそ。一五いひ名付を
うゝいあに男をおをまにわ後びさいうを後をうゝ入らく
親をかをゆゝ後へ月後今を海しぞ面家へをうをへをうは。

親ふをとうをうをてあるうん面をとうをんまゆの男をうををそうれをとそ
ちゝのまれゆへよ。まゆの男をうをををををををををををををををををををを。
おうのをを無断をするををうれていおれををざれば。親也まゆの男を
ををとゝいをぞ。今ゝ面をうれをとを男をををまゆをれば。いやをぞひ後月
ふうねばをずをざあるゆゝ。親ををとかう
ふゝ。我をを親をうの後念をゝ。ゆをを見をでゝ入るを親をれば。
親の後姫と男をををまをれば。親面もをあ面ゆへよ。今ゝおをゆくあをぞ。
うをずをうかを結後の後をれるを後をうるれば。ゝを親をを。後ゝを後
のをうきれ心の中いををぞ。親をゆを屋をうをれば。まゆの男をを
ををれぬをををををぞ。をうをいは兄弟をゆの心ぞ。
及ぬ女の男いをを感心ゝ。ををゆゝ後ゝ。をゆをゝ後ゝ。
てをのをやをんを親をゝ。ををゆをゝ後ゝ。

ちてゐるひさぐものとをゐ迎んとおもひてさわつれどもてあゆんでゐる
須とあり「」あるわれいでる時とのうつ金ごとい出るれまで秘方ひろう
らべたとへナ主サまわりたゐ〇こて出ぐさぐそちとつれていこんぐ「」。
表へ出ろ出べきうるこ方出て表れの拍子をうぐひ来れとみこれいれ秘方
ゆぐて表へ出てそこ色とこんとうこ色とあろれいぐ来ちち耳と面て
字めうろけをべふすあのめつれてぐうこうをあけうう器よりを
つこうん合てゆまい形をぐつうゆ成人のひぐしや字ちちう。
釈屋ないゆをくはきぐんよく海せまうゆ拭ゆをえのこて拍子走
こうは屋ないゆ拍子まうずに入まうぐうる鉄面ゆんぐく「」鉄筆
来ようくみてうれ金わべ主まてあゆぐゆるのうひくよあむをそた
おとつれ出んとちめくと字ちちう出神ぐちう怪ぐぐちとゆうく
まれゆべゆくは拍子ちうけ女中へは面ぐうる主
ゆそべされ拍子見にて時鐘ゆうそれぐ感涙をうぐいゆ名屋を
拍子うる家といつゆ出べきゆうこんに出釈屋のれとあるんぐら
を。出金屋友ゆうれへは家をとをぐうるべきは名ぐにいてゆぐと出男拍
と鉄時ようかされ。このんで出神面をうけられゆこぐきは名拍とは出
金ゆんれいゆに及ぐを。拍ぐたちをゆくなまず。友ゆうれは出ひちんを
は金ゆて。は家をゆ川人結とちに合され。拍ぐをぐめ注家中
拍ゆ一体行ゆ近日家芸されゆ家とのうとんとの出ゆうた
ちまうにて拍ゆに只今者のは名屋を面れゆ家三及ぐず。えまは
家は出を見ごれへをぐれさぐうこ入ゆうれの出耳に入るべいう外
は流見ようこうれゆうぐれに家をうれ釈ごの出名無と注ぐ
きて友は家拍とをぐれんとうこは面ねのうへは出金んれへ
世のうゆは釈面ゆそべされ出三拍ゆうられるべゆよく出拍ゆあつく。

はむかうの人をさへづりたる非と悔てあれ共中むろ
まづく出にはゆづりとうけられぬべき風こそずあさまろ面の海
初めのほどくねるべおろれねばくいあらるれと。中納言と行ひまろ
とやけきべ友成ゆえに。秋もうぐ中納言やかの屋をやとへ。あ面を
ちゆづりやあ友さへ。殺よ行まーゆまとい実るべ。中位あと人よた
づてもまづ巳ゆ。尺ろ。ちよいうりあづ。中納言やさずうら
るあぺ上の中至不と。そ方ねみるるべ。秋とつれ紛らしと。
後よ出るる都ろにてのるへべ。ゆまたちあるぺ。さやにていで紙
面にもあず。別面面秋の西よ中西びゆまを。某中事門や上
べーとやけきべ友成大きふ伝びるひ。秋とるずも中友へ
本巳い。今秋そぐきそ見上に中納言やさ風紛るそあるど。
そやくあんるい伝れと。紙伝れるるりかざるるり

三

まづ秋そ変るべさる並ろより那れ和ー見あるる紙
牛と書て牛とかれを書て伝ゆも。ぱる元一ろにろひ西ろゆべ巳。そ
ぱと牛しへの名ぱ。ぱど後者の中ちたち大脳ぐすめにより。保教に示する
とへた。今又友成の高ある仁紙を。て紙に巳て感じ入。見牛納言
さ見や。ぱ中出を活んと。国の見へ入見とあげ。松友とあるれば成ろ
ぱるぞと庭の下る知るれば。ぱ中たち男ぱの中牛を中上。中今牛友成
云へ中納言みて。車にはゆづりと待るれば。軍に及ばど。ぱ中納言
ぱ二人とやあるれば。庭の下に中牛を。ぱのぱるに及ばぞ。ぱれへ中あるみそ友成
云へ中納言面るされるべ。秋ぐべ。ぱんとやとれば。ぱ行くそ方ぐやぱ。ぱ行
やるぱ。中大脳いぐるべ。門が。ぱねもそ方と。見るあと。ぱるるれば。
大脳い中上面ぱるより中ぱるぱ。ぱるてぱれあやぱ。ぱれされ。ぱれぱ
大脳に行ぱ及ばぞ。ぱる軍と。ぱこのぱるんやぱ。無ぱぞーてぱ

はまをたなびてろれ中に振るく来ぬのといるかとやべきぬる幸姫器とおん
づしまこ〻ずんぞやくは対面わどといへば家がやかいらけてもら海
あてしんりだうて対面ぬとゆるを西と対とのお客せんもおれ
ざれぬばるとえるれ出るもいぐうう若より浦乃大勢といへばそにて
わぬぬを方もゆづんせぬ家海ぐにろに伝わそぬさ春のけきも
ろへくさば同くぬせてよぐぐ一力に切て拵んぬさねるるおえへよぐとらひつ
けきぬ西て云ぬ家成ぐととまるひておるれぬムまを方い種牙の友
海うく敷とえてびつるする。家海も中後でいお宮ちぬろへ家ゆく
乃て紙の西の食とうぐひれて。秋と西にかちつけてのきる退刺に
面科ぐよく出ぐ拵いるれの遠賊い只上にてあにはぬぐとあるでも
上ぐるとつて橋に元ちは対面やさず西一仕の阪親兄の礼を巳
す伝合は云家成ぐうれぬ対面の種いえ拵ぬへぬ中家

されぐぐさるぬ拵おて人をあるずも中対面や事ぬえにるさる力
の拵びいいぐぬ今日るひきぬにくするあひ拵の種の家は和歌ちさ見
とみるれぬく神聖く我は種の家の婿男とはれるく骨にあをつ
ぐれぬぐ力い温賊と業としてぬ神にさ海ぬ骨敷にとる
いるみして軍勢と紙屋ぬ拵一家のへくと打れて西国と探ぬん
と。大脇と力を合せぬ力家に西びわて家敵軍の保侯とるとある。
勢家と結ぬ力に家とつぐせ家とのれ会ぬとにて拵家せる紙
くれを方い町くに力をにくぬ家と海さんとへ人親反中く西川
みるぬぬとそもを力ぬ海にて服切て我る会とく
まれよ。さあるれい他人に家とつぐせんとうてぬ力に家西とつぐさ
るいれるる。そ反ぬ世にるぐくあて種ゆづんとみてもやく
親反を方種命のうちゆづれまで我るに勢通とうけ国来云

三之巻色ざし

にはかにて死わる命をば今家にて死でくれわるれいびきうとる刃ぐ布巻にて縛る
ものより我にゆづりとの出入りばさあ人り身ぐおにて切腹するものもといひたれ
いぬぐさてはこのあに命を捨てるるものあ雷ぐもいとひ出とのうち肌とねぐんと
ものとぐ家ものうち押とあぐんれ切るさ出ぐ裏のに仁を学ぶ学で義侠心強
に武士面もせざる見に親の命にそむきそ出ぬ出をゆづんとそこそこ
いぬうにはもるほどき見出ひの才うあと傳義の仁をひるがぐぐうさくさ
仁うう武士出ぐ学ぶ出ぐ学をあうれ武士のに仁にして強を切て死れば
我強くうあにはきぐ学ぐいぐうや虎猫の死にひくぐ人にてむくに
ものあ出ぐ学ぐ中仁うあ人よ天乃ふくをあひて命の出男とはれうあぐ。
中出人出をとひ出ぐみもはるされど神仁とあるてぐざ出ぐのうぐを
出ひやうあ人だとく家出とはるのあ出ぐ出にそいあ民と接育
るさうく意思仁あるほどさあ強きに武士にあうるうず出は名

あさるく死にいはすと友情と徒匹友成とぐ中ぐ学ぐ出とつ匹
出方と制けきび友情ぐ氣色うるて大義にい親と出すというぐ
出と押強せんと大義とおひ出ぐ友情ぐ出ぐ友成の未
い強とる個に病のうち匹中あの雷勢をいて押と強とのうち服
切すぐ学ぐ学にて切強さすぐ門ぐる服ぐうう友成まく強を切べ
し結い刃びてはさるんと力のうふもとけ。氣色あにいひうると。
親ぐい親にて中ぐうるず関の子を細めにはてこそ大きに肝
とつぶてぐうとと子をわけ四へ入上方よるとうて方ぶる友情う
ぐそぐ人ぐうくと行。中ぐうるさい見ぐ又の強ぐうる武でいるいぐ毎の出
強学の出ぐ学ぐのうるさとるされ武中でい大ぐ者まのそつさ
あいうく。あまうさ人強負ぐうに打出でぐうくとうへけいぐ出ぐ学ぐそう
てぐ学ぐ知て無を捨てあと立近ぐいくや無れいびきう強の村のんぐうと

いそぎやうくまを白とてうりつくへぐつとあがるると者にみなされてぞひるまさ
まてこわつてこべ見れるれどまつまて悟といまふと長門のおぐれの西へ
出るにゆうまやつこ姫れた出合てこうてこのるをそちつてぬまいこ今
まれいりつさらるいぱ友成れの見ごまやといるちゆるさふるげそうとや申
元でいまちゆるうぱまおつこ姫を三人雖義うけているるう友成れあを
や私ぐ高実の見れでござんと伺といるれまちと必はてこにるまれ
てこごさうまるとぞひもうね姫ぐ廣うて出れいぱやうどれて出ひ
いうね場だいをれこ女やぐ形ちない伺うとぬうすこれてひざのちこへ
いちくと軍ちうんて扱いとのれい友成ちの四名ものるうそれた
ちず大臣も茶も一人いつそをこをつこれとこげぐ義ぐ
とうねいて折けるとこやすのこんるを刀を抜て横ちうへいぱちうち
あぐうとかをてたぐうあとこ角こうけて切報せいぱ友成ちあず折うけ

こ角ふとうんの若ちすく力強ぐうとうそれまのとそにうみちこずでよ
友人をきんとすうあへいぱちうーをまつて絶ちつこれて引ふ
せこうたぐうどのつて拾ちいうあちうまれてうちうはてあか友
成れあんはをれるこれうる私いうん稀ぐ門兵とやたものきゆう
ぐれうる弟西あとれすどこいぱうち追つこ義つれます西まで
ふ付と稀ぐあこ揺るこ重ちうにうて西門いにそのちか
約束こうぐめれどもこれざるゆへぜひうく当面へまつてある。
拾ちいかこうてやどこんぱ下あいは兵のこうこれ絶ちつ友の
うつへ出へあるべーといんで友成も義ちも義のごくのあちこいて。
悦びすぐでうれたる稀ぐべれとよろうこのむそうこの拾ちこ
まうを絶ちつ方へ立のくうるうるずあれへまてこ西いれと友成い
義ちをとつれて絶ちつ宅へ約ちうこいぱうち絶ちうこ縄をとうけうぬめへ

こまかて大根よりのまれば家の悪病有りこれ切要なへ
ぐんでとりこみ腹こ金瘕をとごるるまれいたちづく命いたをけをく
と。三人ゝ抜うぞ抱といるざるゆうにより翁命へづるぐ者にして。
又切要完へ抱ておし。抜者をてもつのごとく毒を変。梅雪毒ろ
ぐ志ぐいを。産るる井戸へ流てこ。毒にこぐれ血をぬぐいぐ。
まもるき体これとき。国の戸をちぬ。ぬのゆにてさ。ぬぐ工夫。
ひゝうゝるづきさ。大腸ぐ来るとい。待てあるうゝ。ぬゝうつがたゝきゝよ
て。変成ぬ孔とのぐれるゆ。紅ぬうきにより。て。法仙杵のあゝごの
ちうをくゝるゆゆゆゆんと。ぬ。玉人つゝ入ゆて。怪びあつも。友ぬを
ひいきゆ。ゆゆゆゆ。

三之巻終

三之巻

目録

第一　さす腕よい鉄炮うま〳〵絡るまい寝をてる

抱し命ぬ塚とくれとふいるぬるゆん

変ゆ作ぐても幸も悪や清命の面名

笑ゆうて嗅て番く問れるすゆく

才二　まつある女房色を深く恨となる心底

親族の悔を度々雖小人を命ずるべくして

ひ身をあれぬの夫婦とぬて今去状とい

足が大事を待出さ得と番く後の人

才三　七人寄でも中絶ぜよると言はてよ和ら

無て出さる事が約束いさ白もの多くと

世界の分別ふるみどり三寄親乃中を云

男女の為に計略といえいちどや番くの

法合

一さす脇よい鉄炮むすへ絶るよてい意とさて中

公用を捨ど私用を考んずるい。指下のろくあすといくつもそ川

大脇い大敵の中角にて中上面先二分い岳ぶ。色いはて色変ふ

のこそでまつて。う君の行付くそ中角の趣と。そこくに和て。色ぎ下

面変へ立戻う。宮て酒すまそてあるとと。ゆるふ入てこれば。ろう

一人むつ色き新つきにて。ろ異の祈れ。そいくまそや色いさ〜ま

しう。常たたいいきつれ中ろ色を面にしてヤけるい。

祈ないいるとトさるとと。俗ゆ中ん一和ある祈ま中ヤくれば。結

きんとて大義の計略とあ合色とそ方。今俗いと色を

祈ぶるいぶて不ねあとと。和色と始ぎヤさるも。拝みと生て

う者ととといそれば。某分不肖ろうとい人た軍師と祈れ中自

にても軍のゝ法師を下知して一時に揚貝を吹かせ給へと毒さを
さんと有る事ニ成刻ゝ見て出家の法師ともあり法師ゝ者共合戦
をもてゝ出ぬ者ハ法師とゝ法師ハ法師とゝ法師ハ法師とゝ
ゝて物者とゝ法師ハ軍師一人のゝ法師
にて物ハ人ハ法師ハ法師とゝ法師ハ法師とゝ法師ハ法師
ゝ法師とゝ法師ハ法師ハ法師ハ法師ハ法師ハ法師ハ法師
ゝ法師ハ

いゑたくさんまいるまれ
おいとまナーまをさん
さうじでごぞんを
どうぞいぎく

次郎ごとくしていぶ抱きやつが出あうことを知そのといひくすとそこにて三郎の腹
の親せう伯をう今いつまん我はあの種の面と押領せんとおひ三郎ほ
ろ〳〵ぬきとうがひあるあり。者とみるの友成動乱。そ口づ毎まの友
ゆ親ごとぎはいろあまとおひ三郎。家中まかせ友のゆうるる名あり信人
とまうひきあつもるにも。我頭領と金ることいづ。程として弓矢を鍛一面を
うじゆ親延に作ふふてそうぐうんゆてゆうぐ三郎二郎三郎
の兵衛友清といふ人あるは。元あの婚男あれば。廣まにあをつぐてゆ
とこ公こうひ。基とおうひ信親とおこうとといづ。ぬと用で嫁ゆよ
ちうぐふりのあうゆんとゆ長て。友清に仕えるのの人種の者て
いあほどきとうて。無仮出ひとといふ大盗人の大将。武蔵に住し
力量人ようへ。肝のうとき本ひづ。ふがうぐれまても動ぜぬ。よ
者とゆ人ゆ招きよせ友清とゆ。ゆてそ尾張仕ゆ。情をせば

一度初めをあうんとすし。友清とゆと立て弟の四郎二郎ゆと始め従臣
人ゆ。ひくちうひつまて。を白家をゆうまとゆうて。家ゆよい事ゆ。そ
れ〳〵が初略ゆ云と。を。ようとよいうるとゆの人よいいるゆ。ゆ世
友清の出ゆうゆい指揮て指るゆ。ゆ家。ゆ。家ゆるゆとゆゆて。ゆうんと
ゆうゆうゆ。ゆ友二ゆうんゆれうゆうゆれゆうゆ。ゆ万ゆのうゆ。ゆ友ゆ
ゆれゆいよゆ。ゆ。ゆゆゆゆけゆゆゆゆ。ゆゆゆゆ

はなち出すはさいはひなれとはいへとも猶あたりを
うかゝひ御面をとれば月さきはよりてぞ見ける
のゝ色と筆にそめてかゝれたるやうなる今七則はしりの
つゝ人面にしかれ。ゆゑあるの事いかなる人の家か物語ちう射に陸奥のかとうの
出をこの御ぞいて。ゆゑあり。しゆゑの面のなかとあるにかれをうやまひ
ゆゑいかゞはしたるぞ。ぬきとりの御袖月の手にはくれなゐを
ちりとも染ぬひやさるゝかをぞつゞけにいてられはいちぶうを
ちりやうそのそもはけぐろあるゝのやさわぐ友達の四せ
の月のうちにゆゑあの面はすゝ面とぞ。我くたに安達さうれんこれも
対面ぞいるゝもちうまさるまにてはいつどとつゞにはなれみべ
ゆゑゝしとこのうちをうにいろとといへべき。はい面ひやさるゝみよゆゑあの
をおすせ面んと次へ立ていづくにかつゝ屋さうけん物くしてちうにに

ゐる前結ちうゝ家とおる。ひまいろの結ぼんつれておぼあにみとゐさ
ゆゑの面おゐとおれとぞ。第ちう射と物くはの面をおせべいちうあ面をおそ
おいてできおゐんする中ニ大脇結ちうたニ四ひゃ付し鉄炮といひうれど。
四人の結ぽ果て結ぐ結ちうまへいちうと結へべ大きにおぐろきぞこい
結のゆゑ鉄炮とひまへさをらるやとぞうんすてさぐられべいやく家づ
ひゆさるぞかぞしゆゑあるていの結の万結の四ぞと結てもやゝにゆゑど。
ゆゑ方ゆゑ問もとうやられて安結いちそゆるといへぞ今にてゐ色
ゐうゝ結ゐるにもへおていへべ万一結ゐんするうにてぞちられて
とぞこうやゐぐ月ぞいうりぞまへて家づひやさるゝぞ結ちうゝ神結結ちう
てゐんるゐ面にわずやといへべぞいちう伴の面とおてぞとゐそゆん
ゆゑあぞとこの結ぐぞぞとつくやゝちうず。ぞゝ武家にゐるひゐにゐます
のうれ出ていてけぞ大脇大きゐ化物てぞ結ぞ鉄炮ぞゐてうて

をれとて弟をれば、腎が腎をとり、腎さきを
かまへ、腎と一所まで四人共に一所にくゝれば、大きふ肝とつゞ、やく穴
ぶつ切てくられる。扨いろゝ、江にたちかくれ、まて欲する知屋うとゝが
そとをなせたてつる臣。河に江にたちかくと、折多ひどのれもつるうに
欲射する。ゝ、ゝ、未とゝ、むかうさよ。さどうして欲射をるい服を
うつとゝ、ゝ、二代お伝の主君をおてゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ。
やいる藤ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、

伊丹浜鉄砲ながさ四尺余ありしが、氣ながの鉄砲なるかとも云ひぬべけれど大かまろ和もぬいでまつぶ出れば、それぞれのねぶくろ伊丹浜鉄砲まで鉄砲すてとられしといひつけきゝ。所ろと鉄砲ながさ四尺ありしかとうかがひ、大腦とさろ切ろそさちはに拇囲の格爰上ケ、伴の鉄ものとり出し、横巾の幅ひろれと、首打落し、出て下面爰とのつゝ、一味法者の爰を拭さ、ぐりなその左別と名付爰。用ムさびくはゆるぞかるぞふてきなり

(二) まつわる出爰ムと嫁く様となり史爰

端柳、様とうかがへ、弥名端柳とうかがとい、爰ぐ風でたゝ、のぶく大猪ぐ押外ぢんと手未ゝ已ゝ赤ゝ爰を、反ゝ押ゝて、爰中とゝびけ。親爰反方ゝと別不ゝ柳ゝ門をゝぢゝさ出爰と付。入人と吹味ゝしてさびくゝ鉄ゝ国さ出けるぐ。さすぐ、ぐんざいのゝ、ゝられぐ、ぐ爰の

羅とやゝ、ゝれゝ人ゝ方ゝ人ムを付ていゝさゝ、ゝ、ゝ、

宜しくそれにしたがひ屋敷をやめてまくゆきあそびをうろ
いすとぶのがはしりの上のあたりと迷ひそれば中そひやしもとおさん。
當家の賀とおもひて門ぐちと考へと指こそれ。淫奔なる上海見
いねれた。世ろをやめ行形をきをれときに百姓同然にめでぐ夕夕
とり面に持ゆくまれて大めとおもと考へんぐづきあひ
いやこのゆくいぞ後系のるれいはせるこそとそれなゆにたのうア
てうれらどぐ考ヒ秋こそけ繼行をおるるこのこのれた。妻たなり
ない面倒ものこそして若旁すう。親兄弟い人うけめきて家元の
必とうこうう存るもうず。ろうもにもひるべさいるいこう夕
まれしるれば母房が中屋を中て親兄弟と言ふ留主の男を
そんとやさいぶなつれて中そ行われ。そ方ろまい婦のうり中ゆこの
んぐらい祈めていさそ家にいふ同ふにてあひといへば多かどい

あこの面婦考結と私すで品こ不ろかるきこ元婦いさそ人ひ義分
てこ面おこと。ろ分母が分若旁に住ろぶ夫夫中まの分屋ろきに
行ろるべ。ゆて婦ふい後とゆてこきれと行ぶこてんよとひそろ分そひへ。
婦さんゆことやされるべれいこ面とるるゆこに行ぶひをいひこれべうふ
ん面のまとん稼。家主の親のこんゆこと行ろ中ふ分の中房にそこて
めそいる面のりかず。ゆそどいこ面とこうすど婦ぶこ面といへば結
ここ涙のろへ立考結ふおひ夫の行ことこうぶこひこれぶ中のこうこうひま
さんろれくまこうるべさいこにこふいる面ふいるゆこの中こ中ほのこうこと
約結におひて婦のねへとおひへば中ふと立のこさゃこれてこう病分にこうぶ
行こげる手旁ゆぐこれれば尼ゆこ中ゆて分ふこて親ここの世結にゆこて己
きこの行ぶひげこ分きこてげ立いこ面とこういこれるこれるべ中へこれて
ゆここここここいいのくき行ここゃれれべここれこそ人の面ろに仕

うるこそよけれと祝ひ申さるるに付、諸家にかくべ
女房が頃ものくるんをあくるを見やすれば、ぜんそれあれば、
きて頃て結ばれ、ひとしほ結みて出で行くべしと、
男と寝ぬもそのうひてい男のかたと添せば、親ざくへゆるされさふ。
年とかさなりてあるる男二十の初るれど、添もこれさず、
持ちたとれて頃とりへべつれるり、
きまきのなる人が出るり府に出るとりかること色に宿と出てゆきさり。
孫に昔より、七のよりるすれ、
あのこりと初つけてのいたるり、
八男あのまとり人持てとふも頃し、
てけるもおとりそこ、
なりと像やれるがあり男とあ

盗人の宝蔵もあてがみて女房といるやうに、
の宝をを女内へ入てひろはきあいさ、
あいかくこの浪人なるが宝てかく、
姫の女房ぐ公ぬさぐ屋ぐるいるわさもひ毒のるり
ゆへりそあんさすれいるれ内係ぐ
も出ぬ様に入て世るもちづまに
とのいいんぎんなる云葉づひ。
ひやこうされといそやるる係をひ
成れの係はいんきい一途よ親はんの礼をおひ兄者よ私をぜん
とのこをひりが。
とのそ方へのやあるる係せり。親友をおりてあおいそ。
ろて世をとそんとの平ねいんやいそひくふるもひ兄を祝て親の

金に飢るゝ者の第一ぬすびと者の有立の色うの史友達がをつぎ
めの手間に上京するは。乃ち伊勢けい行そうんぷよくいそうのもつて
いさうびとの出来とやせべう。はづう有る。志ゝ出来物の計器を
いて。友れと盗出。そ主人にて友達と付きずば。秋く公と合せ
祇らて。出れ。ぬすびと友飢れとまつ逢に害せ。れんもけうぐしに私は出
と。立返て。民ぶれいくわうて行兵仕るも。友達友に歓射とる。ゆ屋
おき物とと人せんこの係うり人自出房たいて色とやて。ぽえ
へ逃ゝこうい男籍ちうが公の屋とさぐう人さもんこあいてゆう
籍ちうが出て感とこうゝ友達に退屋ゝ
て出ゝ入や他ゝ友と盗おさん計器にずいぶん入歓仕するゝ。
秋ゝ清素せよと。彦くやこまゝ屋。新友とうびれちうがまゝく
やゝ。ゝ出ゝ色人ちうゝ。出たより近自色物あるべれば。一友

と面てのうゝ人ぬ源面へ何ゝ仕べゝと。行ゝうれちうれとゝいべ。如程友れ
にゃゝと。衆ゆれいずゝいゝ。ゝ。ぬすびと。友達ゝのゝれゝ。ゆうゝ天へ
自ゝうゝ。きひゝう。ぬすびと。ゝ。ぬすびと。ゝ。ゝ。ゝ

が。それでうまと成落して本れしぬ。その我身をみずから結ひ
かと問へば。はるくうまをあけても走てもまりいとまなく。おやなさしたる
おやくの中の見これ。成沙れの今いおそとおれなさしたる栄耀のあまりに私
るをゆるんでぶるぐれ肥ふくあ待よ作はれ。私と結こつりはされ。ぶんまなさ
きぬ私と。五百里にてはるび待あひ。手紙。のせておはぐついてお宝へつれ
てゆくあと。今一宿そは西の方私へ来るのいさとゆて。を長い稲どふ
家屋のうえよりぬけて。屋いち社の緑のトップ。森林のやはられ。ゆくを
ゆくそ。海ひ里へ来ておまくこおいずも。ゆくあうはゆくと。ゆくれいで
うたくこれおまくそれそ。ぶ。重をまきへ。ぶ。やうて。大きい門。ゆ見ぶ。今
散いゆるとうるびれさへせれどぶ。稲と。たくおさふて。稲こつ。若長こつ。ぶ
稲の家のこのこゆうこ。年年の。命。ぶ。ぶ。なものでし

(三) 先家でも出ぶようと高はいってよいねう

次第に近く入て。知りを知るいひくの。海をのぶる。雑ひくき。誘尾川。鎖た
つぶ人の。数。昌。ぶ。おこ。ナ双信。仏。社。くき。の。女。命。の。雑。ふ。を。と。あ。ま。こ。ゆ。く。ぶ。ふ。を
成く。待。招。て。色。を。て。れ。ぬ。雑。は。の。ふ。里。に。ふ。の。あ。る。女。命。ぶ。を。持。て。は。持
ぶ。ふ。れ。て。安。き。は。ら。ぶ。ぶ。女。つ。ま。ふ。ふ。て。待。て。答。ふ。は。ん。と。ぶ。ま。ら。て。私。雑
へ。は。成。冥。か。ふ。ふ。ま。て。ま。ぶ。ぶ。ま。ま。ま

みくいもの
まれさすると

延ばしの法をもつかさずやり上げるべきやうもこれなき仕合ずに切落と刀と抜
合の面々にてぶ御法のうけをもやすべ。私のまして切落も知れ入会なるべ
らかく事なりとの仕様にて仕合と見物ときいあやけ
きべ難ちつ時とつぶ御法しの仕様のとい大極の事。口るる面云極
あるせいどの仕ようもきこうるこの仕合の法を縄をうけとつ迷いまりめ
られ出ぬ出ぬ入ぬ出ぬとぶその外後ろうてぶ自分へ残ってかそれぶ変ぶ
そふいぶの長し時分の拵長れかとと先ひ拵をそうくと嘆をそれ出居
ぶん仕ぶれいうせと新くの事ありてそ兵衛と蹴立ぬいうけて場能ある
こそ矣ぶるれ能ちつおるとつぶ仕様ぶ出ぬせ一基ぶ本
部ちつめぶ所ようてぶ機ぶんと様ぶるうそ様ぶそれ部ちつり
出ぶ。ぶ知て様べきぶと新分の刀に切づうるあ。塚の内へ引おぶぬいうち
ぶうけぶもするやつれ先ぶくりつひうる四切ぶれん刀ぶにうけるぶり

ぶんとなぶと刀と抜てうり上る西ぶ拵の表紙表ちつぶて部ちつ様よ
ちつひうりぶ表の命ぶるうぶ様ますする先地ゆ白ちうぶ。それ先表
入るくぶるにけれぶでるくぶもに命とめうぶと刀もうそなど部ちつ
命とかぶひぶかうひかうり物ぶるせぶ能ちつうぶ長刀とひうくうる面の様
ハうてゆえてのるべきぶ様のゆへよきやつぶ命とかぶひぶ。ぶにけるべたに部ちつ
ていうくうをぶ下人ぶたぶ人るるあもうん人ぶ白ぶうるや塚いうれたきのうる
ぶうあ出の部ぶ。釣延ちつぶ表ぶ部分ぶうて出部ちつぶ分とかぶぶい様いぶ
ぶ。表面にてもいぶとうぶ表いうぶ。ぶうるいうぶ。ぶうるかうさすれぶいうくなるけ
られぬちつぶのれそものぶれいあぶとぶうるとぶ様ちれぶ表紙塚とるぶ。
部ちつぶ命とかぶうるあいぶ。ぶうるの表にのうたいうほどと様ぶうれぶて
表面ぶう表紙のうぶ分と様てもなけうれやうにぶ上に人ぶうされ
ちうぶ安の分れうあもうんぶうき才一の非表ぶにうて様ぶと引ぶ上ぶ

雜談の色所れ心頭とり出ていの友友成れの男上に人らて往ニ[illegible]
よひるされさるまそれをなぐ他人でもあるまうの男にて来てなされ。
はなの法元にいこ頭を法者し破ニ出そと伝分れあれべとて腹をおされるそのの
金銭とも石ぐく法ニついさるとは男ニよて新ろ雜談ているな
ごひニ秘新屋ニ入てゆそ方をとこのひ男腹てそるあゆどんの待てあ友
友成れの方へ出てつどころれもよこい面友友成れのはきぐんよこす
のをとおこて世の人口入ものと面せになるく出氣つぐ出金子のふ腹を
かけを出とこいされ女とどこの中魅よ男腹なされ出てもかいされるは
よいす君と高弱な仕法ろて下ぐ出。ぐ方ま人のるみいてこんぐんせ
てこのむおをおひゆてそらが金をとこぐ出ていれとおひゆどんてとり
みぐこるかいて友成れ方へ出こてなれとこのをしゆへ出ぐ農入ぐ出ニ
新屋ふの仕掛ぐ出れ出ぐ人の悪名と世ていに出ぐねい腹下の名ぐいい

ふも藩なふひ出た。悔ひるの人ふ出ぐほどと出ぐとさいい金を持ての腹
法ろるを出ぐ出ぐきろるとこんて出ぐ君を高ぐいるされて。
友成といまれるとぐ出ぐたくいて法ぐぐけば藩ろ金をいる巳四ろ妖目
のやろけくく法をこぐ出ぐでろたく友成とこ下のふいた男ふ出ニか
ろぐ出ひ合ふた二法出我も来藩秘仕法ぐろをいふここてにふ友
合長ろ出た婦よ出れるのふよ藩法来のふをれ。ぐろ員と法ろも
いこぐ出ぐ法ふ出ろ女とぐ出ぐとろふぐ出ぐ友成ろの方へ高ぐいふろれ法新
おさ友成ふ人ぐ出ぐを出ろこ高ぐ来とこのこを友ろいのろと思人こふ出。
法ぐもおろれぐ家ふぐ人金とかぐろ婦ぐ出ぐ高成出家ぐ押
れるされてろいふ来ぐいろこけいこくこんてろ入加婦とおて出ろぐ分して
感とろるふ来ぐ人のやろにろてぐ出ぐそろぐま勿然い婦ふ出ぐここ。二男ろ
ろへ出ぐ出ねこて出ぐ出を追教ぐ出ぐと法法ぐ法ぐ出ぐ来ぐ出郎ふ出ぐやろ出ろにんせ

うけるいつの友成さと肌と合せ。友作の友をろうぐ一ぱ系おぼえ丹とのの計略と称屋いたそうれた。と氏それいたの系のこれてられおるぐすこと敵ハ今家物と倍しは出へよ白かろぐさいご太友言云の口今わ臣云によりて扶いこのいをつ一。友作友二元八怪系をつ臣色ろ仕ここ四ぞ色とうぐひ太友をねすま新。ぞ行く系わ臣て友作友へ欲射すろ平ぞ。今のとろても太友という男を振れ。ぞ百たいやけにろふて。新と扶てかろ分ろれいぐろこいに来いろのぐ臣ぞ。ちと深切。新絶ぐろれ。ぐ臣い友作友二約絶ろた一系の関を切ろとあ拡さ白ろさんろの一つの計器。ぞ氏中今系の二度ぐ仕ぐ白ぞ。このまろこそ言貴。ぞ白とーれ自分のぐさみよろゆれぐ。ろ方を毒ぐいこ西ろ。ぞの妻と又のぐさみ扶ろすろい書は国系の非義北ろのたろるとろてぐひつきしのたにぐいそとつろ白ぐ。ぐいくに味方へ引ろんあのぐれも計策ぐ分ろ白をあろとかいぐ系絶ぐいん系れど新絶方へものびゆさ。敵計略のおもひきさいこのメ白。系ぐ系よび四へろけられぬ中にぐくと白白いひ中白ぐよ。ぐちぐろいていろのあいぐもあぐろ臣氣ろ佐して新ぐ絶れて出てゆけと。分ろと系ろと新ろぐ。ぐ系の友を扶ろうてかろうけきべ。ぐ系絶い扶びまろいとそもろ美いぐまぐ中合せいぐとさられてろ臣いぐ系の友をろ系ろ西ろうぐびヤさんろまそろと。又ろまぐ系角ぐひよんのろとおろ。ぐひろぐ白ぐおくてまずろぐろ。ぐ新ろけて中系絶いぐ新ろとつれてまとちてちゆんくと。絶をひれろ扶浦の里へでいそぎろり

四之巻終

花蝶

多羅尾大海嘉

同録

第一　実相の奇妙と見知大和の眼力

譬て申さん人として無へ考幼せざるんや
先殺つぐこの指さと拾へて入てひ大神示
さしも恐し計策と見付しても落ぬ男士

大倉文庫

みそ巻

第二

[illegible]

第三

[illegible]

(一) 実[illegible]の[illegible]の[illegible]を[illegible]る大[illegible]の眼力

感[illegible]

[illegible]

母とあつがれて仕まつりて行ぐひに我今和ぐべき。友だちといふことを知
かげとりて。かる栄花の男とぬぎてつくに。ぬぎつれ。男女のこと極まりて
もかくいはじ。今和ぬ。ともかくやはせにふひとく来臣。そなさい大宮に
を悟り。善まうる。幼ずう寝食をとられて。男女月ちる男女あり。
友だちを和ぐれ。ぬぎつれ。ぬぎつさいなきはる。母のあげよりて今日かく
のごとく社大男とぬぎ。一回を学ま拾て。栄耀男にあまり。何ようなき
男とぬぎいぬぎて。ぬぎとは。一回を学ま拾て。栄耀男にあまり。何ようなき
ちとより。幼和の男の出来をとらへいぬをとして拾どべき。あぐ一日も出家
国そぬぎ。ぬぎ出のは差男をとりて人さるゆう。ぬぎても出ようるふ出家を
なきりどと。母とのぬぎはき和とぬていぬぎぬるも和をおぬる者ぬり
らいぬ。友方ぬ和ぬぎぬるぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎ
きけふい何をぬぎかぬ出家に出ぬぎ。ぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎ

らく西へ表面の侍ぬぎおいしかしてまつて。ぬぎぬぎ出ぬぎ伊勢より来ぬぎ
いて。大和楽とぬぎの。和ぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎ
ぬぎ男流から出ぬぎて。ぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎ
れ和ぬぎぬぎぬぎ。大和ぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎ
ぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎ
ぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎ
ぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎ
ぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎ
ぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎ
ぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎ
ぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎ
ぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎ
ぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎ
ぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎ
ぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎ
ぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎ
ぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎ
ぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎ
ぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎ
ぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎ
ぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎ
ぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎ
ぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎ
ぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎ
ぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎ
ぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎ
ぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎ
ぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎ
ぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎ
ぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎ
ぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎ
ぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎ
ぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎ
ぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎ
ぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎ
ぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎ
ぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎぬぎ

大あく人のぐるぞ
あらくさくみのるみどもどやい
大坂一ゝのえせつわうろう
天竺ちずうくごせよ
さわぎよろこぶ

[illegible]人為憍慢心出来と云て[illegible]
後の二人は[illegible]
とおそれおどろけるそのおりからの[illegible]獅子の乱曲四番[illegible]
楽と世恒ひさの[illegible]
今の名人と無双をけばけばしく[illegible]
出て来てどどとおめいたり。[illegible]
すすそ中入[illegible]
又[illegible]
位[illegible]
[illegible]
仕[illegible]
[illegible]

宝の[illegible]
つけていまれいたれば祝宴びろ[illegible]
かけさる男[illegible]
はどろ[illegible]
くろ[illegible]
[illegible]
[illegible]

ぞうぞうおろかのかてゆうもあつまるものぞうへのやうにあわびとあわのうとを
おろかをわいふさをて入こみぢけつくえをと謂はされ。男男かををまぐけ
ぐけうのねへとらぐひあれたぞんをとを合せ入こんぐこ。人方でぬかも
をつあるにせずにいをくはぞ。友家れ面をえぐて石家に出るされ。私
お供よついて寄るかへ。四方の国家が伝ぞるへひこあるを住よ忍をて
腰せざとひあるさびとへべき。伝よ腰をべき。只親友の男のこを
あんぐでこを牧籠をれ寄をていひ合せ色たと人我い友伝ぐ友に入みを
あつれあをくんゆうた。推て只大友のおいすあをあて一書を押入。
四別家をくのけまてられ伝とみをれべパテを吸いをに出る一味の
京中ぞ合点のをにてひへぞあをれをぐづひるされまぐど。一味の人をに
もたのをり無往いひ文せ友家の伝をて只二人友伝のおよ約ぞだ
らく暮て友家のをひるへぞかいうん伝へ門をとい男伝意と

いぐうねぞ上をやるをとまぐざるゆへよぐ私の腰は絶とかをうひぐ私の
伝屋へいつぐや彩宅のを面美にてやせおくぞんをるぐ才の男ひて
家をつぐるををうずとぞつぐをとふめ伝をのこぬぞをつをるをもあをの
親家をと彩やうぐのをねぞ。今いてををつをを屋にちぐひをるく家出ハをか
をへゆぐうぞ。私い男をいて世をををを屋にちぐひをるく家出ハをか
押こを面をて拾をを文ぞいに只上をを大都よ拾る男にてもぞをををいをひ
をへぐどぞ。をしねは屋あをへを男の世ぐれをて屋伝をん腰ををか
らねぞ私のをををも母ぞ友ををといは母ぞ腰をををを男の家
ををををきををををへ貞女のをよへををずぞ母ぐうに孝をををされぞ二を孝
へををれをへぞ。四孝の人をへをされまぐぞ。ぞうを母ぞ二ををを孝伝を
をくされをへぞ我今家にてす書をとぐぞ。ぞをを孝ををもぞあをとは家ぐひ
をくお孝をさくぞは母ぞのをぞ。ぞ世ををををあぞをとをを上伝る四屋をを。

[illegible]

[illegible]

[illegible]

おてポン共人あつられおぢら鉄砲とかけ人をあひかれいきみこいさむんを
も死なくにあうそそおきれてあるとかれ臣あ冷手笑分が河を
かくるをいぢら鉄砲とまるとるのあつれとよ知られぢんと家の勢蔵。
やらけこいつれても分うごきとれいぢ決ごさけそこ口ぢが胴ごくさちまち
ゆうん家ヤす。同ぢ口トにても泳ぐ四男の熱ちろいぢ急ふろい移れすの我
はまを押分てう。面と付くん分ぢおひげのちうとれ。藤とるとのついやう
ハ。はるえ中ゆりこ男よ河幸にあざず基報友を人袋同あこをーこあ
面ヤゆ今の分二羽七恵ちとおすとち友のみよるねがぢを基よ
元入恵とうて報義どうだりんとの下公ぞにちいか別すのそれ人久
報よさりてあとえのき付やそて百社よるるるるけそれで分ぐゆん
ヨ人や家ともいるを分ぐこづるもをそれすごくと立のくさ会ろ
ふぢ人後織よ行やりて百社よるるるとと臣を後急のちうとさゆう

のちうい行浴とくるやふ夜沢とんさすかこゆよ大祝まにすぐさを
ろくてハこみおすろぐるおとちてやこ六ぐいぢとちくぢ懐いちをにちろ
て初て人分ぐるよ因終ふ図よいわどやコレ実成ぞるさのの行する
ん信い家のゆげやいて初ぢうあ結よ沢くれと学てめぐちとといん
決ぢひといちろ学とちるんぢのちうの全年と漢ん恥会とやてそち
ぐ妻の見ちおとつれぢおとちてひ退初まあその非紙とすひぢ沢りニ
そちぐ盗賊ふとれられ武百ちとれりわれんぢ人をといて性報と
ろんちぐさぢんあぐがてぢ船ぐ方へ分ぢきやつぐ逆ぢとさぐりきろんさあ。
ぢとちるちるく動ちやうれにちさいぢ仕結いも方みるゆるちとう
分るてゆれぬそれにりちと居をうん浴人りのこぬて大結ちうんられ仙
也浴沢ぐひんりてそちさこれるいけすぢニ害ちちるて西とたちけぢの
河兄とちるちとるのりてふちひーりた時ぢの方和ちの面の兄人故

とをつんがるにぞのずあんにはぐとあること之のこと墨をもつて
家ふと押付たてゝ男が一面ろの[illegible]屋をこゝろあしきうとぐ[illegible]
らどそらをごいい合て入こみ[illegible]いさかひよりそれ[illegible]はなどすること
[illegible]ゝ男が[illegible]をとゝとゝとゝ

さうぶのつゝ武藤とはいとさいはいの男の所へとゝさんをどの男様の
あまとかくしに法師とおろうの在の悔とのゝうに秋とあるの母と
わまくあるのゝのゝわうぶをとゝさんに申ねいきうぶいさき悔や秋
ゝるくしてやゝあゝぬおゝろゝぬせいるゝくみるいはを一度あその在の
思ひと。母人わゝさゝをに参はけいこの附いは母
のゝいそうけさゝかのわゝくぬ武藤紙様さをんゝるとさゝいもゝん
報恩とうぶをさんゝうぶゝかるいと。新ゝひ秋とんげゝをゝあゝ。
れ事ゝに悔い報れ法報とおゝをいきをいみゝ射ゝうゝ引器梅のが
きず。天の思法ゝおそれおゝとあそゝうゝをせいはを在参ゝをどみゝ
うに成人せゝをぶゝにそゝうとうをに行ゝゝ釈ゝう引ゝるわゝさい
ゝて母ひゝうがゝんゝとへゝをぶゝそあげゝる母の釈のいゝるゝい蓮婚三
ゝゝゝゝゝゝいあゝを色ゝねゝ世ゝ法ゝ母と二人ゝてゝをぶゝるゝの

ゝるゝいあゝいきゝ母のゝあゝぶゝゝをゝいゝゝ男ゝをゝをゝれ報ゝ三ゝ者ゝ者ゝせゝ
ゝを事ゝゝい抜ゝれゝゝ天のゝゝをゝとゝゝて法ゝ報ゝあゝわゝゝゝるゝゝくゝびゝゝい
母ゝが記ゝゝゝゝゝゝ

我と共にぞ歌ふとはうらやましくてうたれぬべき
心ひとりそこの緒といふものぞ
しゆくの宿あるいつたえにいはじ
もはやこの山ゆかしきかなと
その歌をうたひてせとをとつぐ
きぐんとて山へ別れを惜とおもふ
そこをこそ
中納言さすがにこの屋と
よろづの人ことに感涙をながす

三

始れのあはれはのこれ
志合ひは
今ぞ知る
なつかしきかなとうたひ
ひとりぞ後の連枝の
むすびをはじめ
はもむひのエトリ
はるかのおとをうけ
オ三のひとりと
つきてきぬ
くびをうつ
服をとりかへ
と抑られ
そうぞくせ
ひとりぞ今ぞ後の連枝の
むすびをはじめ
はもむひのエトリ
はるかのおとをうけ
オ三のひとりと
つきてきぬ
くびをうつ
服をとりかへ
と抑られ

の報命今日すでにとげたるなり。御身はいつ人ぐんも浮世にうとき身。えまぬ
てまうりのごとく出家の業をとなりあれば別口々友成へあるべきぞ。
大猪ちうりひとりとしてる家の主人。厨と姫との面と深とにうてこれと
ありて後目の主人をつとめられ。家と世をあつまりに者幻をつくさんとぞ思
又無りへ別る我よりあり。命を付て給はれと。家の面を友成よりさ
されりてとて切二合るき猪。面方威公方ならず。者をいひ義と
いひあつられ我るがどわりでうしりしぞ。近に及ばぬ友成
をやさむぞ。一家中の業もいよく友成よりあ動をつくさんと按をこ言白
をあつと花宴姫と婚礼の後ほとりむすぐん用意いてを仕分れ。
はきぐんよりくへやすくへぞ。上下悦びざわり友成かさてこ後花宴の友
妻を石れ今日報友いひなづけの花宴姫とぞ後ちのはべとの仕分り
まぞ義嗜中とその方達とを後りくへとけばぞ又とへ家とゆづんあの方後に

ぐとなるひよ身をとあり。即氣と待んとあとの気をの我ぶ申立
のおとちびひあよりはれてあり猪のいひまけに作り受人ぐをとや。報を
なぐり巳後別よりいひあ身の姫とまぬに立ずあ人の妻に立ぐされて
いあ人をやねといれていぞ人を使てをとを巳義の石時伝りとぬそぞ又
上へもいとへもあ中の後生へもあぐ巳ぞ人はれをとあさて後に面く
にいあ人をやあいり巳をれた今いりあ人をうるれば友人たに中をけ気きぞ
の源とをひありあぞ悦て後りるか別友人をぐ身が特とをして
それに源に分れば身が何よりあぐび指あの方源よりついてられを
よて。妻と今てあみぐと伝をれば二人たにちぐあさ入ぬ巳が伝が和
いぐれのたおりあ身人のおてあにる妻まそれで世河にそむぐ中はど
とあれば友成うぎりあく悦びあひ別猪尾川猪ちぐどめ。方
一を猪ちいまぐ妻女あさは身がをと情とけ屋のまと

あるあいだ、ひ女我妹ふたりて、鎗とりてせ方
ずぶんふ仮をとりけてらわきよりて、死なと、鬼とのあ死の名をさけて
るれば、鎗ちり刃にあまりあさ仕合。悔めい、異かよけ、家来のもと、去日
とをとめ、物来の者てて、恢び、私者へ、ゆりくり、次よ、鎗ちつ、家来武伝
田部ちとまちるれ、ま人、鎗ちつへ、あとうりいて、向ほ、刃ぐを、習にけつ
うん、絶れば、ひ女一人、にくて、ふ仮を、我方へ、ふ世、ふ義、ほ、もつ、されど
ひ、勇、ほ、て、ふ仮を、ぬぐ、ふの、妻に、ほ、さ、ろ、ぞ、ゆつれて、ま、れ、と、ふを
ふて、ま、二、ひ、ろ、れば、部ちる、義の、刃、て、き、ほ、ぐ、さ、仕合、と、ふ仮を
使ひ、ものぐ、ふ、ま、いさみて、こそ、いつ、ま、ゆ、ろ、ば、ぐて、女、ふ、ふ、刃、の、ふ、を
に、ちを、建ふて、女、刃、といふ、名を、ま、に、ち、ち、と、ま、ぐ、ま、女、則、ち、と、ぬ、ぐ、け
ま、ひ、ぐ、ろ、ま、ぐ、と、ふ、こ、ろ、ひ、ふ、ぐ、ち、陵、者、く、出、ま、て、入、れ、仕、ま、に、ふ、を、回
の、名、傷、を、拵、ま、ま、ま、ま、と、物、ま、ま、ま、ま

西方より新しき仕出しを左右打ちかしずきて つの人引出でて長さ五尺ばかりの縄をうけ取
方丈の庭さいへいあせび世界はしりの上をめぐりて門の人引出し新しき筵を敷きて
終て西人出て門の内へ引出す 首と切り屠殺門にかける 抜き目ふれば成公の
姫君を姫君の御前の桜の木に結付 左右に引張公のまぐくに
横ぬきの姫人の枝び新めぐりの御前 ぬきの姫人の枝人をとか
ざりの中 長側をそえ長巻にて長巻の刺と姫の面をとりぼ長巻にて姫の
中の中 ほてりぬ ぬいとさいの木の主殺にるぞ人法花三法ながとれまの
松いかりの枝となりぬ 家の名いろ形の尾上をうの中 命ぬ 万葉万
家 命ぬ 名い 家 名 孫永 つ 巳 おその 家 富 河
ろく盛の花の長こそめぞさけも

享保十八年 丑 正月 吉日

文之巻終

八文字屋八左衛門